

# 新型コロナ下における困窮家庭の実態と 今、国や政治に期待したいこと ～大規模家庭アンケート調査の結果から～

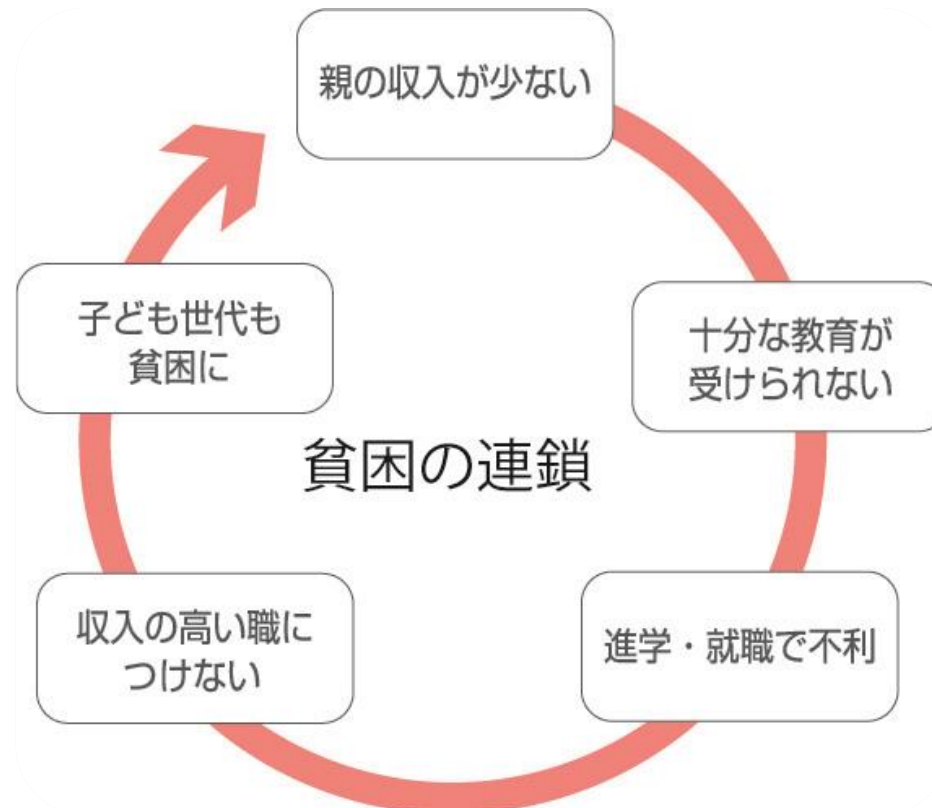
2021年12月8日参議院自民党勉強会  
認定NPO法人キッズドア  
理事長 渡辺由美子

# 本日お話ししたいこと

- 弊団体の活動のご紹介
- 日本の困窮家庭の深刻な実態
- 大規模アンケート調査（中間報告）のご紹介
- 今、求められること
- 参考資料
  - ワーキングプアのための就労支援
  - 少子化と子どもの貧困

# 認定NPO法人キッズドアの活動紹介

# すべての子どもが夢や希望を持てる社会の実現



貧困の連鎖 → 将来に夢や希望を持ってない

わたしたちキッズドアは、貧困に苦しむ日本の子どもたちの社会へのドアを開けるべく、多くの大学生・社会人ボランティアと共に、子どもの教育支援に特化した活動を展開しています。

### 団体概要

認定NPO法人キッズドア  
<http://www.kidsdoor.net>



理事長 渡辺由美子 プロフィール

2007年任意団体キッズドアを立ち上げる。  
2009年特定非営利活動法人キッズドアを設立。  
内閣府子どもの貧困対策有識者会議構成員  
内閣府子どもの未来応援国民運動発起人  
厚生労働省生活困窮者自立支援及び生活保護部会委員  
全国子どもの貧困・教育支援団体協議会副代表理事  
著書：子どもの貧困 未来へつなぐためにできること  
(水曜社/2018年5月)



高校進学者数

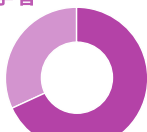
184人



初めての受験に加えて、休校による勉強の遅れもあり中学3年生は大きな不安を抱えていました。しかしボランティアやスタッフに支えられ今年も184名の中学3年生が高校へと進学しました。  
※キッズドアで高校進学指導を受けた184名の中学3年生が対象

私立高校進学者

59人



公立高校進学者

125人



生徒数合計

1498人

コロナ禍の中でも小学生から高校生世代まで多くの生徒がキッズドアの学習会に参加しました。オンライン学習会なども始まり住む場所に関わらず、様々な形で生徒が学習会に参加することができました。

小学生

211人

中学生

711人



高校生世代

576人

大学、専門学校進学者数

60人



東京外国語大学、山形大学、明治大学、東洋大学、大正大学など

長引く休校だけではなく、受験制度の大きな変更により受験生は不安や戸惑いを抱えたまま受験に臨みました。キッズドアでは勉強を教えるだけではなく、正しい受験情報を伝えることで生徒の大学受験をサポートしました。

年間学習会開催回数

4,881回

緊急事態宣言下でもオンラインで学習支援を継続し、4,881回もの学習支援を今年も行うことができました。感染症対策を行ったうえで、生徒が安心して参加できる学習会を開催しています。



ご協力いただいた企業や団体

227団体

多くの皆様のご協力により、キッズドアの活動は支えられています。寄付だけではなく、プロボノや物資提供などのご支援が生徒の笑顔を支えています。

企業

212社

行政

15団体



ファミリーサポート物資&情報&就労支援対象者数

34,182名

コロナ禍でスタートした「ファミリーサポート」では、全国のご家庭を対象に食料や進学情報の提供に加えて、就労支援を行いました。支援した人数は34,182名に上りました。

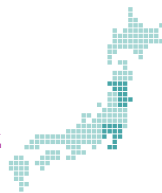
# 数字でわかる 2020キッズドア

FEATURE 003

2020年度も多くの方に支えられ、キッズドアは活動を行うことができました。そんな2020年度のキッズドアの活動・成果の中でも特に印象的なものを数値化して表しています。

拠点数

74箇所



東京にとどまらず千葉や東北、そして今年からは埼玉でも学習会は開催されました。勉強を学ぶ場だけでなくコロナ禍で行き場のない生徒の居場所としても開かれています。

ボランティア人数

748人



大学生から現役社会人、年配の方まで今年も多くボランティアが生徒のロールモデルとして活躍しました。オンライン学習会では日本各地からボランティアが参加しています。



メディア掲載数

93回



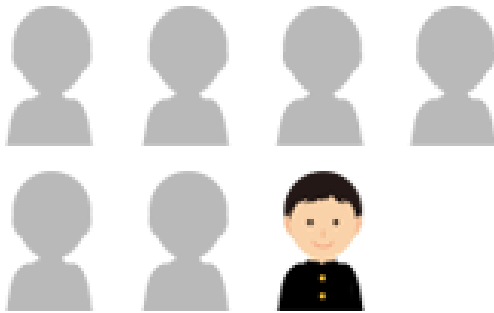
今年も新聞、ラジオ、雑誌、テレビなど多くのメディアにキッズドアの活動を掲載していただきました。コロナ禍での生徒や保護者の現状をこれからも伝えていきます。

# 新型コロナ下の困窮家庭の深刻な実態

～働いているのに貧困状態から  
抜け出せない日本の困窮家庭～

## 2009年に初めて貧困率を公表 → 新しい社会課題

日本の子どもの**相対的貧困率**は、先進国の中で上位  
日本にも満足にご飯が食べられない子どもがいます。



**13.5%**

(2019年国民基礎調査)  
子どもの**7人に1人**が貧困

OECD加盟34カ国中**9番目**  
OECD平均 **11.6%** (2014)



**48.1%**

ひとり親家庭の貧困率は、  
**OECD加盟34カ国中1番**

二人親でも**10.7%**が貧困



## ひとり親家庭の就業と収入

	母子世帯	父子世帯	児童のいる世帯
就業率	<b>82%</b>	85%	
正規	44%	68%	
非正規	<b>56%</b>	32%	
平均年間就労収入	<b>200万円</b>	420万円	
平均収入*1	243万円	398万円	
世帯の収入*2	348万円	573万円	708万円
正規職員の年間就労収入	305万円		
パートアルバイトの年間就労収入	<b>133万円</b>		

## ひとり親世帯の就労率 先進国1位

## ひとり親世帯の相対的貧困率 先進国1位

図2: ひとり親世帯の就労率

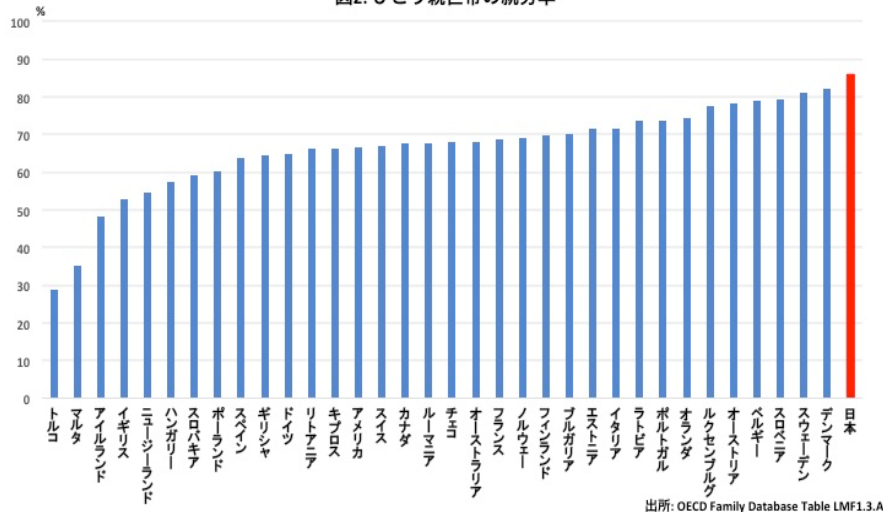
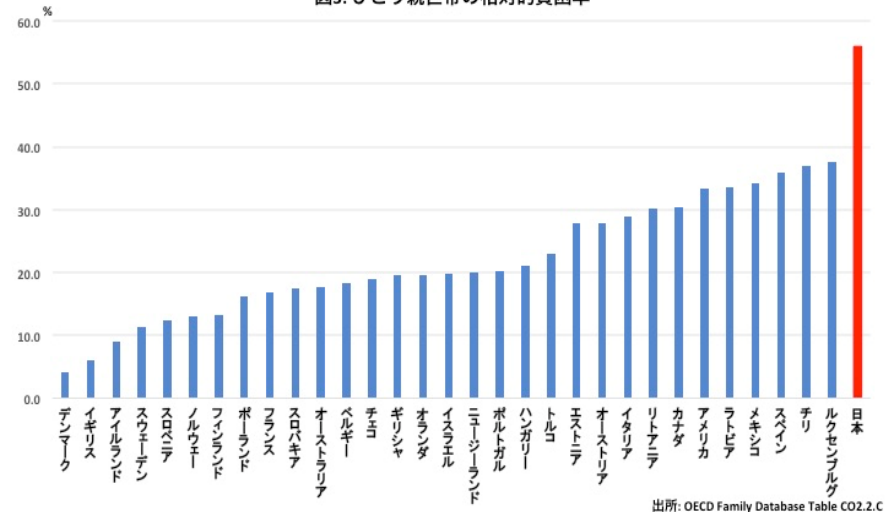


図3: ひとり親世帯の相対的貧困率



世界一働いているのに、世界一貧困な日本のひとり親  
= 世界一のワーキングプア

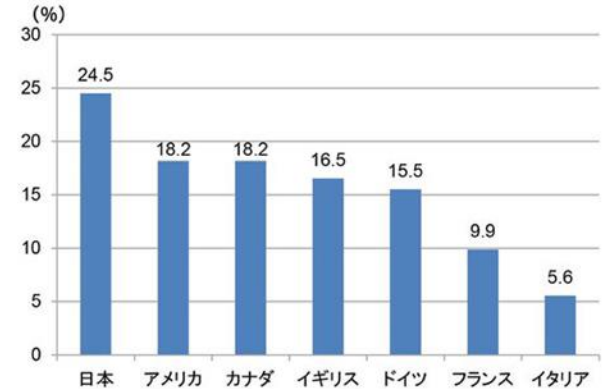
子どもの貧困は自己責任ではなく、社会構造の欠陥が作り出している

# 日本でひとり親の貧困率が高い理由

## 1 長らく続いてきた就業構造と男女の賃金格差

子どもの世話もできないほど働いているのに貧困から抜けられない

主要先進国におけるフルタイム労働者の男女間賃金格差(2017年)



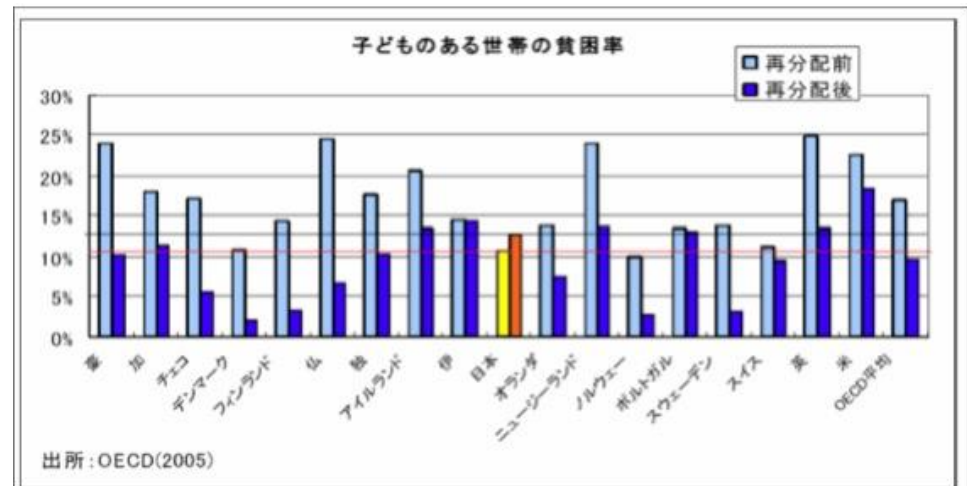
(注1) ここでの男女賃金格差とは、男女の所得の中央値の差を男性の所得の中央値で除した数値のことである。  
 (注2) フランスは2014年、ドイツ、イタリアは2016年の数値。  
 (出所) OECD「OECD Database」より大和総研作成

## 2 養育費の受け取り率が低い

	養育費取り決め率	現在も養育費を受けている	取り決めしたのに受け取れていない
母子世帯	42.9%	24.3%	<b>18.6%</b>
父子世帯	20.8%	3.2%	17.6%

## 3 税の再分配機能が弱すぎる

日本だけが、再分配後に子どもの貧困率が上がる  
 改善傾向ではあるが、まだまだ足りない

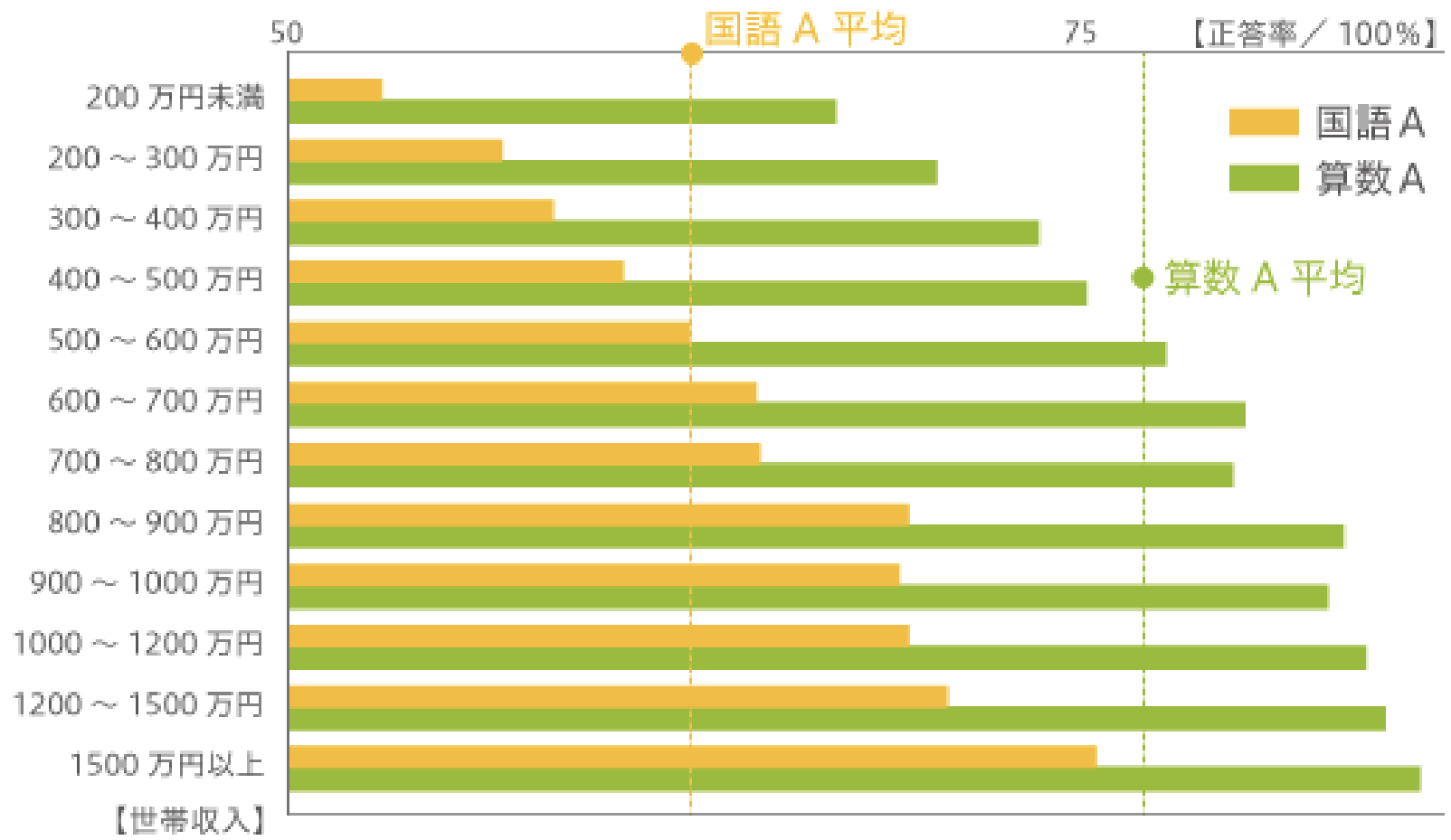


阿部彩「日本の貧困の状況」2007

<http://www.tkfd.or.jp/admin/files/1119 Ms.Abe.pdf>

# 教育格差一親の収入で子どもの学力が決まる

世帯年収と子どもの学力(小学6年生)



出典: 国立大学法人お茶の水女子大学「平成25年度全国学力調査の結果を活用した学力に与える要因分析に関する調査研究」  
公益財団法人チャンスフォーチルドレンHPより

**塾や家庭教師に行かせられないというだけではなく  
生活環境が大きく影響している。**

## **住環境**

家が狭く、勉強部屋がありません。宿題をやろうとすると、保育園の妹が邪魔をして、ドリルやノートをぐちゃぐちゃにしまいます

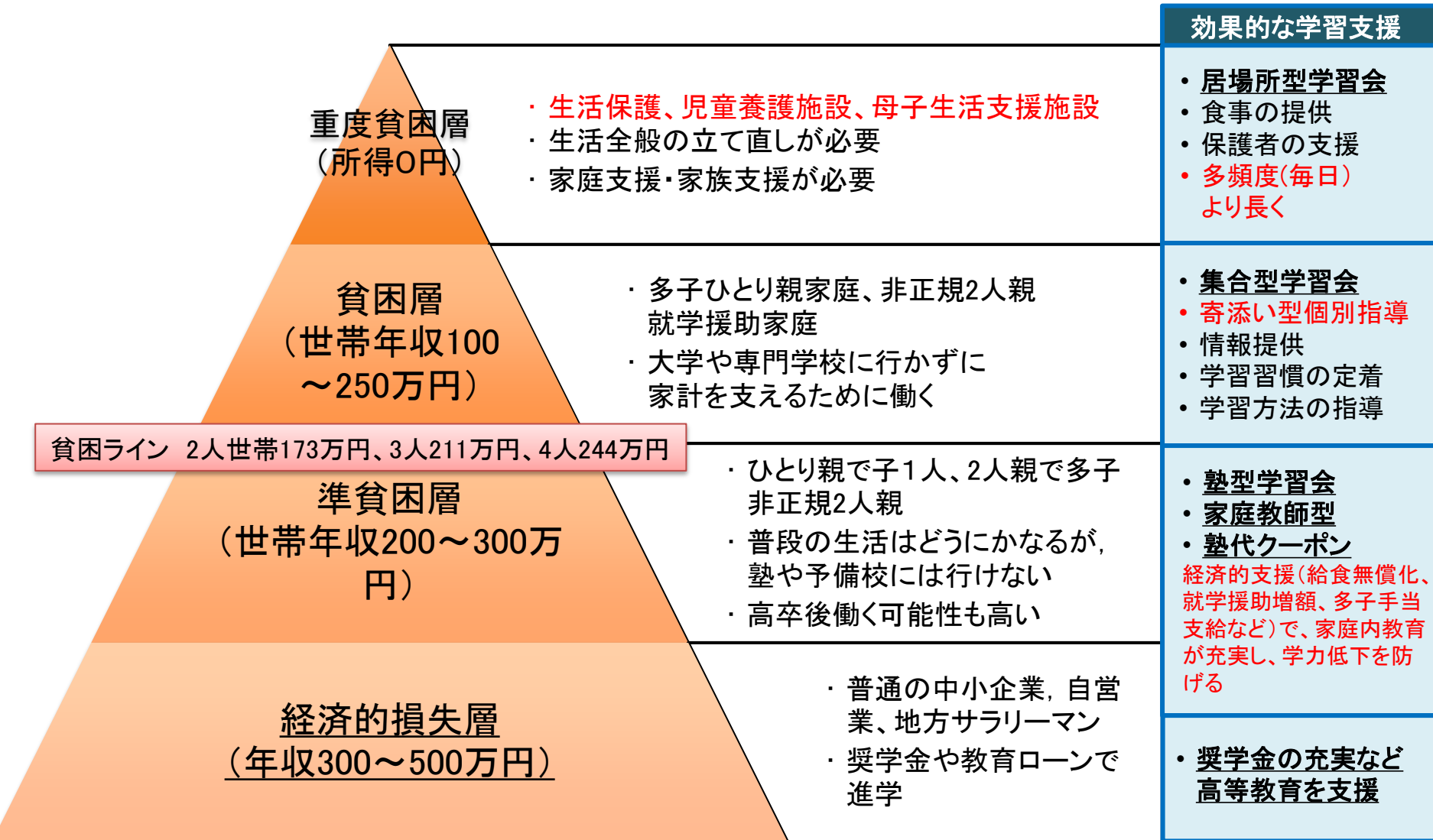
## **時間の貧困**

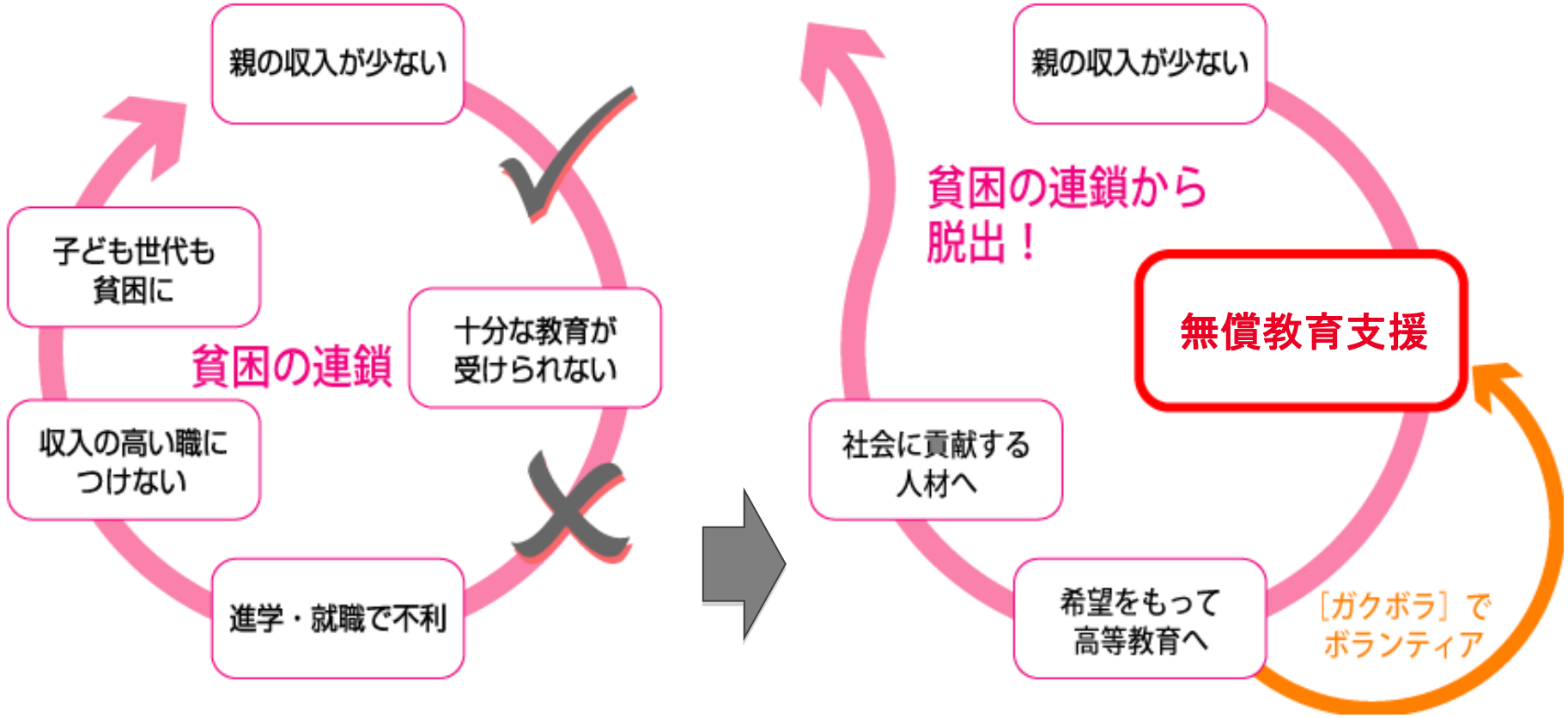
母子家庭で、正社員につけないため、低賃金のパートをWワーク、トリプルワーク。子どもは家で勉強をみてもらうことができない

## **教育へのわずかな投資ができない**

家にはパソコンがない。参考書や問題集を買うのも大変。模試が受けられない

# 日本の子どもの貧困の階層





Ex. 高校に進学できずフリーター  
→生活保護受給  
税金から支出 **-**

+

大学→中小企業正社員  
生涯賃金2億6000万円  
生涯納税額**3,010万円** **+**

=

1億円以上の効果  
一人を連鎖から救うことが  
国にとっても大きなプラス

日本財団の試算

現在15歳の1学年だけでも経済的損失は**2.9兆円**、社会福祉費の増加が**1.1兆円**







# 大規模家庭アンケート調査の結果紹介

～長引く新型コロナウイルスが  
困窮家庭にもたらしている深刻な影響～

# 大規模家庭アンケート調査を実施中

- 弊団体ファミリーサポート支援事業にご登録されているご家庭に、**年末年始食料支援を実施予定**。
- その申し込み家庭のご協力を経て、**ご家庭の経済状態、ご家族の健康状態や精神状態等をお伺いするアンケート**を実施中。
- 今後経済政策や社会保障を専門とするアカデミアの研究者等との共同研究を予定。
- 調査期間：2021年11月29日～12月6日
- 回答数(12/4時点)：**2,585件**(12月6日時点で登録者3510件)

日本全国の困窮子育て家庭(児童扶養手当、就学援助、住民税非課税、コロナで大幅減収、多子等)に、登録いただき、情報・物資・就労の支援を行う。  
PCがなくても登録できるように、LINEを使い、スマホのみでも利用できるシステムを導入。2020年10月末から登録を開始し、現在3500世帯が登録

### ■ どんなこと

コロナの影響などで経済的に厳しい全国の困窮子育て家庭にデータベースに登録いただき、食品や文具などの物資支援や、奨学金や政府の給付金などの支援情報をお届けする事業です。

### ■ コミュニケーション方法



LINEとアンケートでコミュニケーション



### ■ 支援内容

#### **i** 情報支援 (助成金・補助金、教育資金・奨学金などの情報支援)

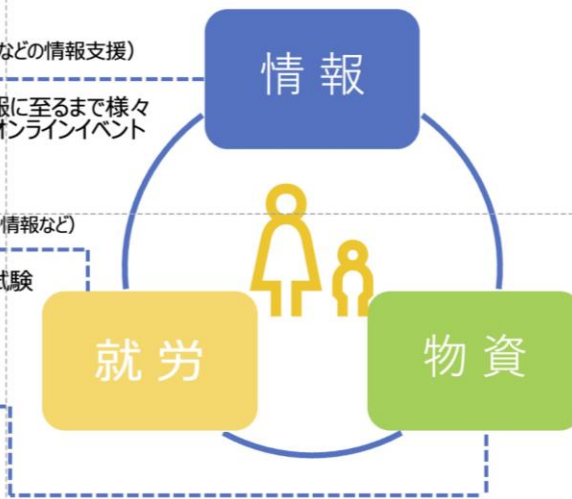
各助成金やサービス等、また教育資金から求人情報に至るまで様々な情報を提供する。教育資金や留学などZoomのオンラインイベントを定期開催

#### **JOB** 就労支援 (無償の資格試験やIT系オンラインスクール情報など)

将来の継続的な生活安定のために、無償の資格試験の配布やIT系オンラインスクールなどを提供

#### **✍** 物資支援 (食料支援、文房具など)

定期的な食料や文房具等の無償提供

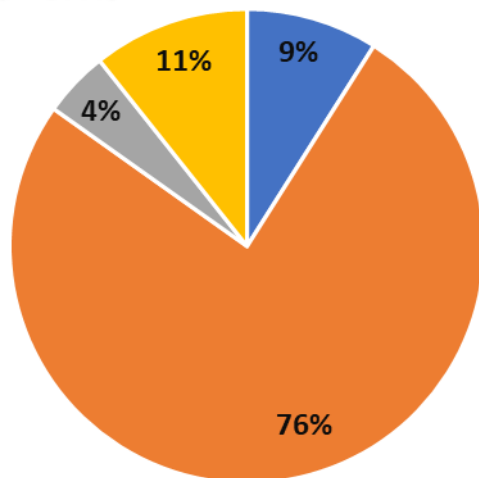


# 回答者の基本情報

- **女性が97%。**  
**離婚(別居含む)が最多で約8割。**
- 同居している子どもは1名が最多(39%)、2名(36%)、3名(17%)が続く。

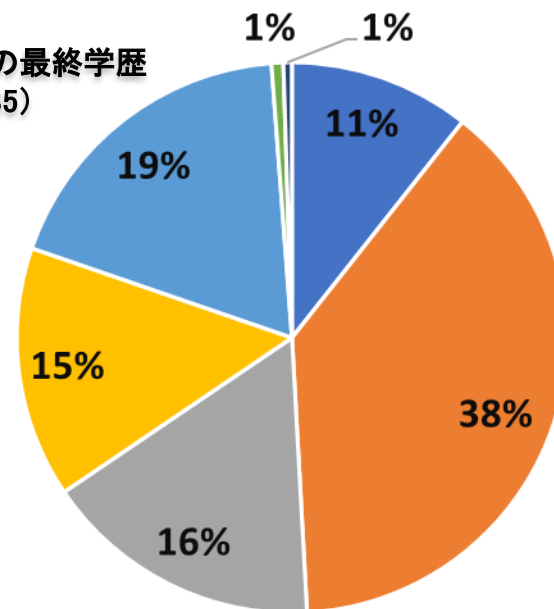
- 最終学歴は**高等学校が38%と最多。**大学、専門学校が続く。**なお、中学校卒が11%。**

婚姻状況(N:2585)



■ 結婚している      ■ 離婚(別居中を含む)  
■ 死別                    ■ 未婚・非婚

回答者の最終学歴  
(N: 2585)



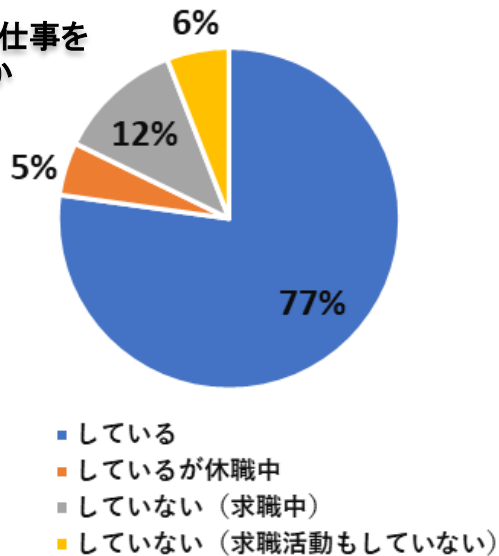
■ 中学校                    ■ 高等学校  
■ 専門学校                ■ 短期大学・高等専門学校  
■ 大学                      ■ 大学院  
■ その他

# 就労状況

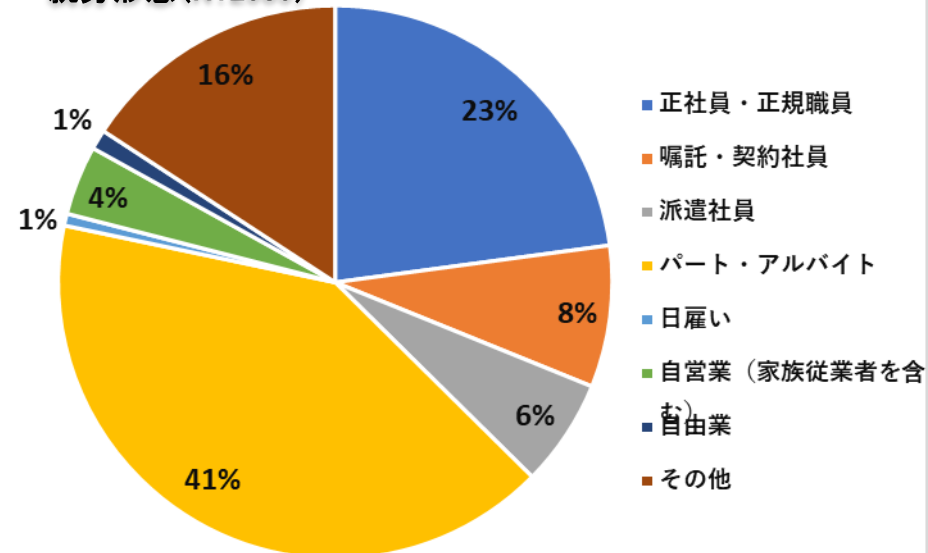
- 回答者(離婚者が多数であることから、世帯主がメイン)は働いている方が約8割と最多。
- 休職、求職中の方は約17%であり、仕事をしておらず求職もしていない方は約6%にとどまる。

- 就労形態はパート・アルバイトが約4割と最多。
- 正社員(約2割)以外の有期雇用、非正規雇用が全体の約56%に達する。

現在収入を伴う仕事をしているかどうか  
(N:2585)



就労形態(N:2585)

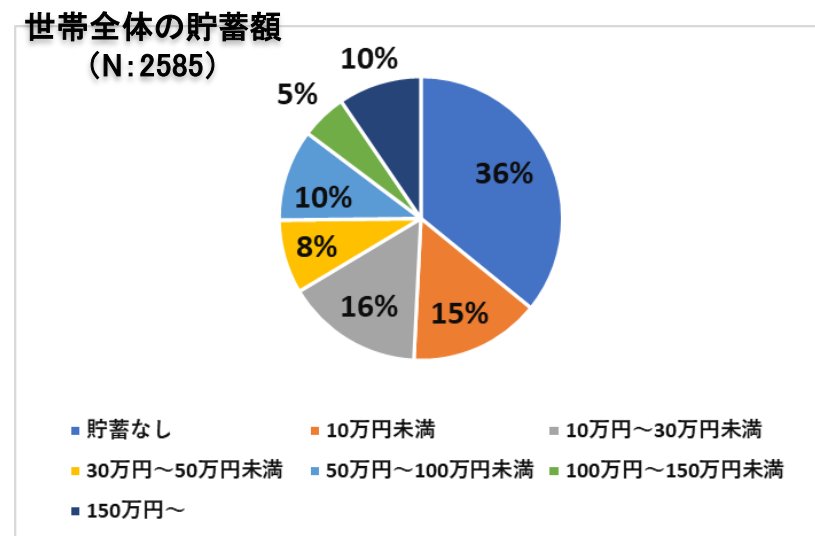
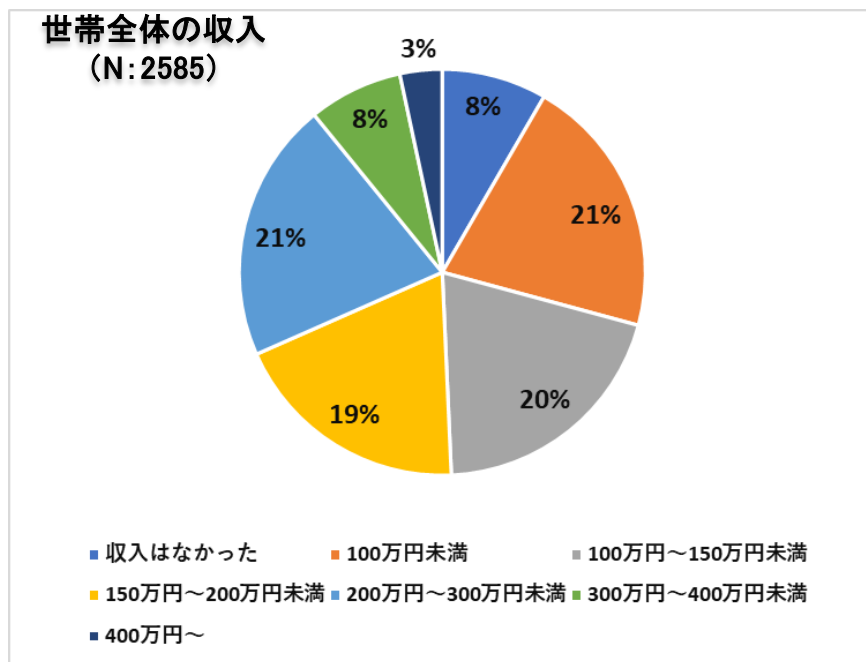


多くの家庭が働いているが、不安定な雇用状態にある可能性

# 経済状況

- 1年間の世帯全体の収入は、**100万円未満が最多(21%)**。200万円未満の家庭は約7割に達する。

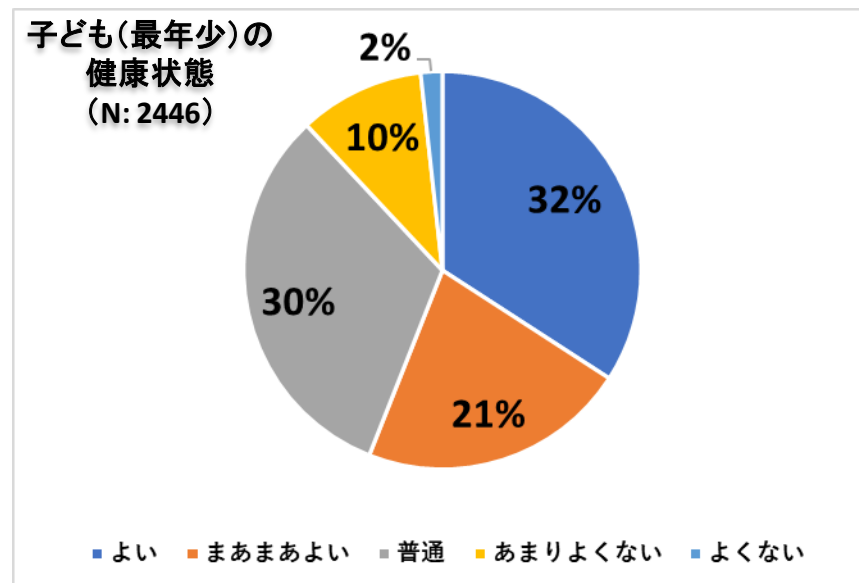
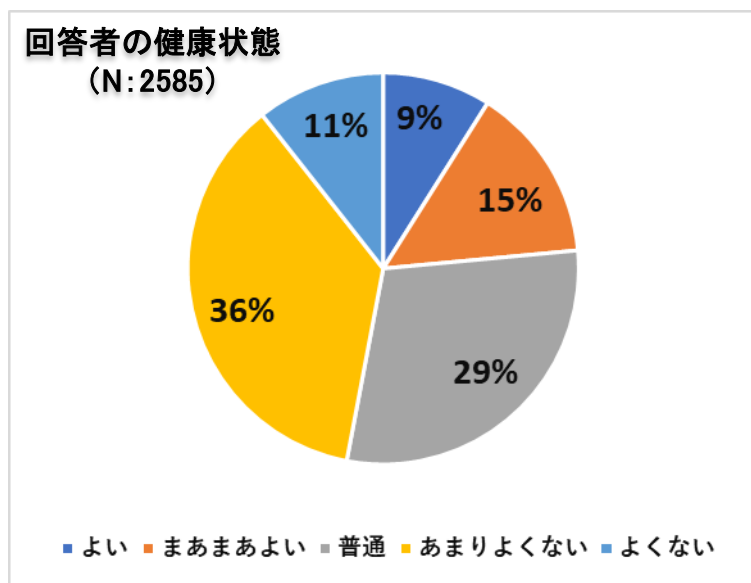
- 貯蓄額についても、**貯蓄なしが36%と最多**。貯蓄がある場合も、**50万円未満が75%**。
- 約8割**が生活必需品の支払い、子どもの学費等が払えなかった経験あり。



世帯収入が低く、貯蓄がかなり少ないため、家計急変時に一気に危機的状态に陥りやすい。

## この一年の状況（健康状態）

- 回答者（保護者）の健康状態は、あまりよくない（36%）、よくない（11%）の合計で約半数に上っている。
- 子ども（一番下）は、ふつう、よいが多いが、あまりよくない、よくないと回答した方が1割を超えている。



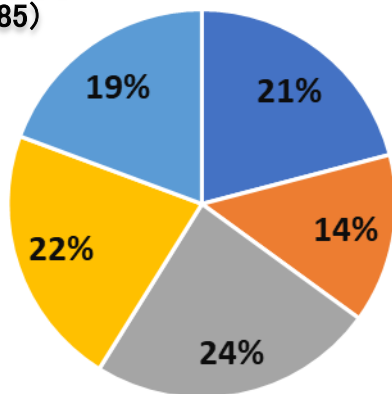
保護者の健康状態が悪化しつつある。  
現在の状態が続くと、子どもの健康悪化もより拡大する。



## 回答者の精神的な状態（直近の1か月）

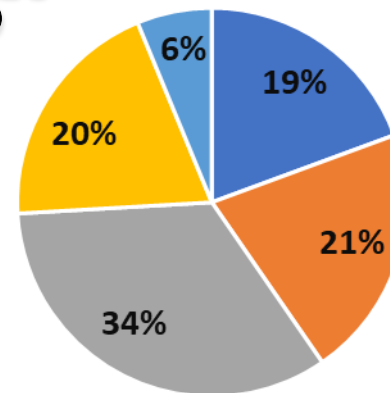
- 精神的にマイナスの状況がどの程度生じているかを尋ねたところ、**「いつも」「たいてい」という回答をした方の合計は次のとおり。**
- 絶望的**だと感じる(33%)、**価値のない人間**だと感じる(35%)、**気分が沈み込む**(40%)、**神経過敏**を感じる(44%)。

価値のない人間だと感じる(N:2585)



■ いつも ■ たいてい ■ ときどき ■ 少しだけ ■ 全くない

気分が沈み込む(N:2585)



■ いつも ■ たいてい ■ ときどき ■ 少しだけ ■ 全くない

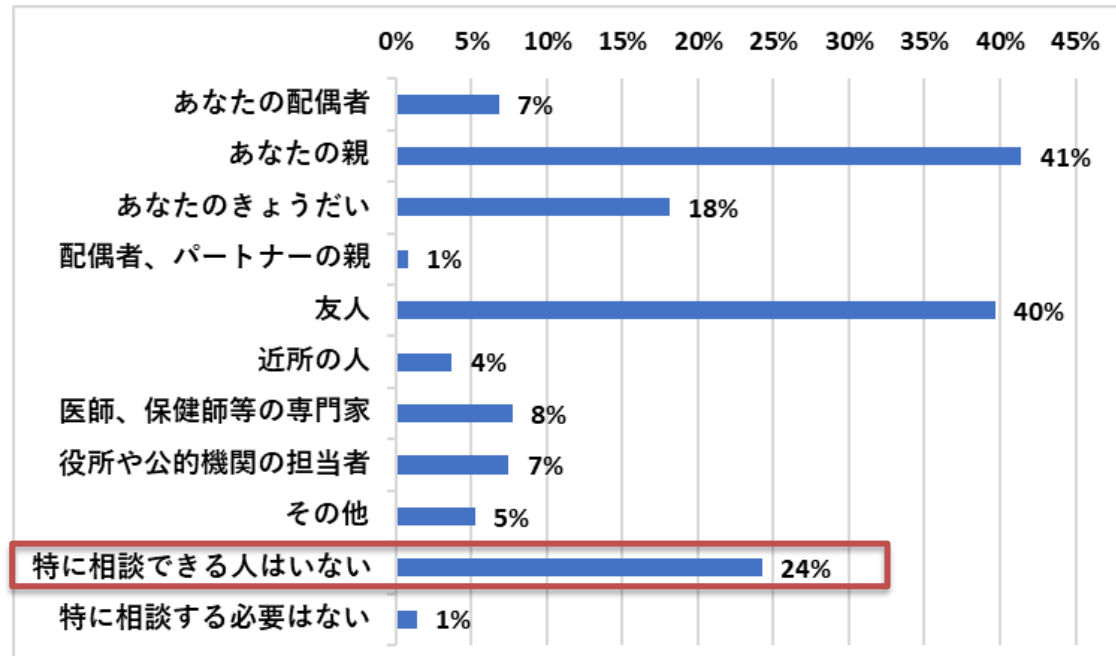
多くの保護者が、自己肯定感を失い、活力や意欲を失いつつある。

# 相談できる人の有無

- 相談できる人が誰かを質問したところ、親、友人がそれぞれ約2割となった。
- 相談できる人がいない方が約24%にもものぼった。
- 相談先として**専門家(医師、助産師、保育士、保健師等)、役所等の担当者**を上げている方も**少数にとどまる**。

相談者はだれか  
(N:2585)

※複数回答のため、割合の合計が100%を超える。



困窮家庭の人的ネットワークは限定的。  
困っているのに、公的機関や専門家からの支援が十分ではない。

## 調査結果まとめ

- 女性で離婚・別居中の家庭が多く、世帯収入をひとりで支えているケースが多い。
- 就労しているにもかかわらず、世帯収入が低く、貯蓄がない。
  - この背景には、保護者の就労形態が有期雇用、非正規雇用等であることがあると考えられる。
- 保護者の健康状態、精神状態は危機的状況にある。
  - 子どもの健康状態にも影響が及び始めていると推測される。
- 困窮家庭は子育ての専門家や公的機関とのネットワークも乏しい。
  - 公的機関側が支援施策を用意していても、それを十分に活用できていない可能性がある。

# 今、求められること



～国や政治への期待～

9,10,11月に行った  
コロナの感染等で  
減収した方対象の  
食料支援を受け取  
られた方からの  
ハガキ

【コロナ緊急食料支援】  
感想やメッセージを  
ご自由にお書きください！

いつも ありがとうございます。

元々 低所得で困っていましたが、  
今回 濃厚接触者に家族がなってしまい、  
更に収入が 減って困っていました。  
食事に 使いまわしが出ていたので、  
息子達に、白いご飯が食べたい  
と言われつつ 麺やパンやお好み焼きと  
主食も安くすませるために、かまんさせて  
います。お米、子供たちが白いご飯  
だ!! と喜んで います。  
お菓子もありがとうございます。

 KIDSDOOR  
NPO法人 キッズドア 

# コロナ被害をこれ以上広げないための支援を！

## 1. 年内のすみやかな現金給付を！

- 家庭によっては食料を購入することもできない場合も。
- 子どもの冬休みは給食がなくなるので、子どもの食事がピンチに。
- 年内の現金給付が子どもの命を救う。

## 2. 公共料金未払い時の救済を！

- 生活に必要な電気、ガス、水道等の公共料金が支払えなかった経験をした家庭が多数。
- 灯油等の石油関連価格も高騰。
- 公共料金未払いであっても、電気、ガス、水道等の生活インフラのストップに猶予を。

## 3. 年度末に向けた追加的な現金給付の検討を！

- 年度末は進学や受験等でさらに子育て負担増加。
- 年明け以降も、子育て家庭には現金がさらに必要。
- 年明け、年度末までにも追加的な現金給付があることで、子どもの未来が救われる。

# コロナ被害をこれ以上広げないための支援を！

## 4. 家庭に本当に届く支援情報ネットワークの構築を！

- 家庭は、新型コロナ関連の重要な支援情報を当団体から得ている(後述参照)。
- 仕事や子育てに忙しい家庭は、情報収集に時間をかけることができず、有用な情報を提供してくれる人的ネットワークも希薄。
- 個別家庭に寄り添えるステークホルダー(NPO等)からの情報発信の強化に国からも支援を。

## 5. 子育て家庭に配慮した生活保護の認定・制度運用を！

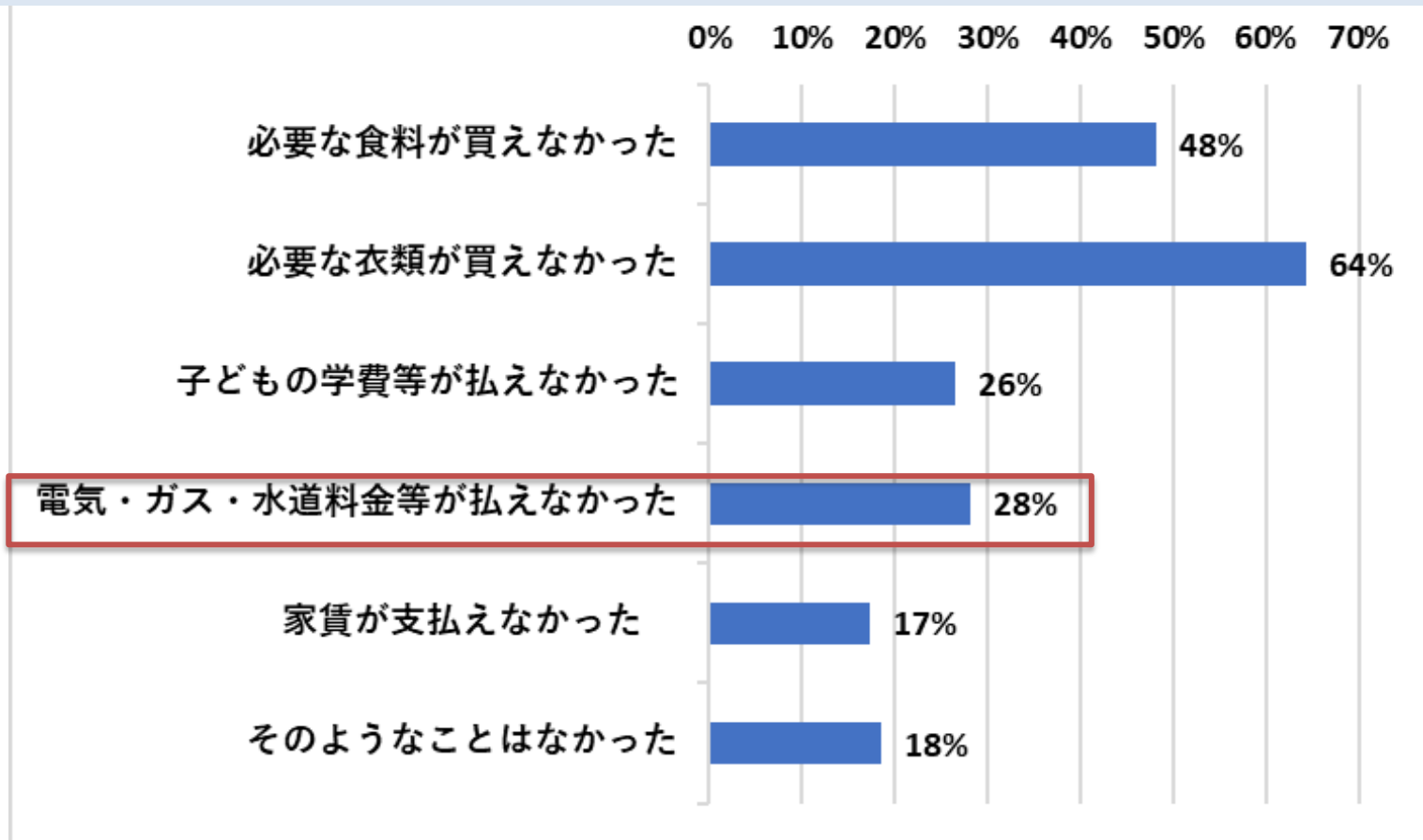
- 長引く新型コロナの影響により、いよいよ生活保護も家庭の選択肢に入りつつある。
- しかしながら、車の所持の要件緩和はあるが、窓口では車を持っていると申請できないと指導される事例も。
- 住居の要件も厳しく、認定によって子の転校を伴う転居をしなければならない家庭もあり、子育て家庭には厳しい状況が続く。
- より柔軟な生活保護制度の運用と、子育て家庭の事情に配慮した要件設計を。

# 生活に必須の支払いができなかった家庭が約8割

過去1年間の間に以下のような状況はありましたか。(複数回答可) (N:2585)

※複数回答のため、割合の合計が100%を超える。

※「そのようなことはなかった」と回答した家庭は18%。それ以外の家庭は、生活の必需品や家賃、公共料金、子どもの学費等を支払えなかった経験があった。





# 家庭の主な情報源は身近なNPO

(コロナウイルス関連などで) 家庭を支援する制度の情報はどこから入手していますか。  
(複数回答可)

1	キッズドアからのLINE・メール	467	66%
2	ネットニュース	342	48%
3	テレビ	297	42%
4	各種SNS	253	36%
5	他のNPO法人からの連絡	163	23%
6	市政便りなどの広報誌	161	23%
7	市役所・区役所のHP	155	22%
8	友人知人からの口コミなど	115	16%
9	新聞	59	8%
10	国のHP	53	8%
11	所属しているコミュニティなど	30	4%
12	ラジオ	9	1%
13	その他	5	1%
総計		—	706

キッズドア調査  
21年9月  
N = 706

# 中長期的な制度改善も、必要です！

## 1. 児童手当の18歳までの延長を

- 高校進学率がほぼ100%。高校生の間は継続的な手当を。

## 2. ひとり親の雇用環境の改善、収入の増加につながる雇用支援を

- 非正規雇用等の状態では、仕事を通じてキャリアアップする機会が乏しい。
- 企業がひとり親を積極的に正規雇用するようなインセンティブ付与を。
- 既存の職業訓練制度を、働きながらキャリアチェンジできるような就労支援制度へ。

## 3. 不登校の詳細な実態把握・要因分析と対策を

- 不登校の要因のひとつには、家庭の経済状態や保護者の健康も深く影響。
- 災害後には不登校が増加する傾向。大規模災害であるコロナも深刻な影響をもたらしている。
- 国の調査(「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」)は学校が認知している不登校やいじめ事例のみの調査。より家庭の実態に踏み込んだ不登校の実情の把握が必要。
- その上で、家庭の事情も踏まえた不登校対策の検討を。

## 4. 困窮家庭に真に届く支援施策への改善

- 仕事に忙しく、精神的に余裕がない家庭にとっては今の制度は利用しにくい可能性が。
- 支援施策が実効的なものとなるよう、エビデンスに基づき、素早い施策検討・改善・評価のサイクルを。

# 参考資料

ワーキングペア（非正規ひとり親等）に  
フィットした就労支援の必要性について

完全オンラインの就労支援「わたしみらいプロジェクト」

令和3年度厚生労働省  
生活困窮者及びひきこもり支援に関する民間団体活動助成  
採択事業

子育て中の方々のための無償就労支援プログラム



週1回1.5時間、土曜日の朝 or 平日の夜の開催！  
3ヶ月のオンラインプログラム

受講料・テキスト無料

# わたしみらいプロジェクト

自分のこと、子どものこと。  
ずっと、ひとりで頑張ってきたのではないのでしょうか。  
毎日余裕がなく、この先の未来について、  
考えたくても考えられなかったはずです。

でも、大丈夫。もうひとりで悩まないでください。  
女性キャリア支援のプロのもと、  
同じような環境で頑張っている方々と、  
少し先の未来に向けて、  
一緒に考えてみませんか？

あなたと子どものみらいのために



**一人ですぐぐと悩んでいましたが、抜け出せるきっかけに！**

未来の目標がざっくり異なると、「自分の未来を変えたい」と思いました

マイナスだと思っていたことは、自分の考え次第で、プラスになるんだ、と気づきました

漠然とした不安が具体的な不安になり、未来への第一歩を踏み出せそう

講座がオンラインで、土曜朝や平日夜の開催なので、働きながら参加できるのがありがたかったです

**自分に自信が持てた！**

苦手だった自己PRを上手に書けそう！と思えるようになりました

講師の前さんが温かい雰囲気ですごく癒されて、心が元気にになりました

強みは、資格やスキルだけじゃないと知ることができました！

どれも説明が分かりやすかったです

同じ境遇の方たちとお話することで、モチベーションが上がりました

**満足度 91%**

第1回～第4回、累計34名へのアンケート結果より

漠然とした不安がなくなりました！

講座やワークに取り組む中で、自分がやってきたことに自信を持てました

**あなたも、未来に向かって、  
一歩踏み出してみませんか？**

## Q. どうやって一歩、踏み出せばいいの？

▶▶ 説明動画、説明会参加、申し込み、すべてオンラインで完結できます

もう少し詳しく知りたい人、すぐに申し込みしたい人はHPへ！



## Q. どんな3ヶ月間になるの？

▶▶ 平日夜か土曜朝のオンライン開催なので、働きながら無理せずに参加できます！

- ①オンライン講座  
自らのこれまでのキャリアや強み、また悩みなどを振り返りライフプランを設計。その後、企業への強みの伝え方を学びます。
- ②個別相談会  
女性の就労支援のプロにキャリアや生活などの相談ができます。
- ③最終講義(企業相談会)  
子育てする方に適した求人を持つ企業に来てもらい、内容を聞いたり、質問をしたりします。求人申し込みも可能です。

第1回	わたしの未来を描く① 子育てと仕事とわたしの未来～どうやって両立する？～	第4回	わたしをプロデュースする② 履歴書、職務経歴書の書き方
第2回	わたしの未来を描く② 未来のお金とキャリアアプラン	第5回	わたしをプロデュースする③ 印象を高めるプレゼンテーション
第3回	わたしをプロデュースする① 強みを知る	第6回	わたしをプロデュースする④ 印象を高めるメイク講座 企業相談会

## Q. 本当に3ヶ月で変わるの？

▶▶ 過去のあなたの経験から、強みを見つけるワークを行います。  
自己PRを自信を持って語れるようになります

▶ Kさんの場合



Kさん(わたしみらいプロジェクト卒業生)  
・10年ぶりに再就職し、期間定額パート職で就業中/第3日、1日5時間勤務  
・中学生、小学生、結婚育児の3人の母



## 受講後のステップアップ例

キッズドア理事長をはじめ応援団の講師の方々、事務局スタッフの方々、一緒に参加したメンバーの方々と数ヶ月間の交流により、常に明るく前向きに物事を捉えられるようになりました。また、定期的に繋がっている安心感がありました。(40代女性/子供1人)

わたしみらいプロジェクトのお陰で、自分を見つめなおすことができ、転職をしたことで職務経歴書などを作成する際にもとても有効活用できました。また、アピールする方法とも学んだお陰で早期の転職ができたと思います。(40代女性/子供2人)

初めて、就活の際に障害をオープンにした。これまでクローズで頑張ってきたので、自身にとっては大きな一歩になった。長期就労へ向け、また頑張りたい。(40代女性/子供3人)

派遣で働きながら転職活動をしていましたが、先日、一般事務の正社員で内定いただきました！(30代女性/子供2人)

## ー新しいオンライン就労支援の形ー

わたしが変わると未来が変わる! 「わたしみらいプロジェクト」 ～あなたのはたらく一步を応援します～



### ・お母さんに寄り添った就労支援の実施（52名）

「ひとり親」「多子家庭」などの生活にお困りの方たちに寄り添った就労支援を、21年2月～4月の3ヶ月にわたって開催します。これまでお母さんたちの就労支援に携わってきた3名のプロフェッショナルたちによるセミナーです。子育てと仕事の両立の方法から、自分の生活状況にあった仕事の見つけ方、実際の履歴書の書き方に至るまで、実際の就労に必要なスキルをオンラインにて身につけていただけます。また講師との相談会や、実際の求人を出している企業とのマッチングイベントなどを開催する予定です。当企画について厚生労働省にて記者会見を実施し、各種メディアに取り上げていただきました。

### ・講師の方のご紹介



小安美和  
株式会社Will Lab



田中 彩  
NPO法人ママワーク研究所 理事長



蒲生 智会  
株式会社スリーアウル 代表取締役

<p><b>HOP</b> わたしのみらいを描く</p>	<p>第1回:2月13日 「わたしのみらいを描く①子育てと仕事とわたしの未来～どうやって両立する?～」 講師: 蒲生智会 第2回:2月27日 「わたしのみらいを描く②どうなる? 未来のお金」 講師: 小安美和 第3回:3月13日 「わたしのみらいを描く③ライフ&amp;キャリアプランの描き方」 講師: 小安美和</p>
<p><b>STEP</b> わたしをプロデュースする</p>	<p>第4回:3月27日 「わたしをプロデュースする①～強みを知る～」 講師: 蒲生智会 第5回:4月10日 「わたしをプロデュースする②～履歴書、職務経歴書の書き方～」 講師: 田中彩 第6回:4月24日 「わたしをプロデュースする③～印象を高めるプレゼンテーション、面接のコツ～」 講師: 田中彩</p>
<p><b>JUMP!</b> 一步踏み出す 2021</p>	<p>【予定】 キャリアの個別相談会 企業相談会</p>



#### ー概要

- ・主催：NPO法人キッズドア
- ・協力：株式会社Will Lab
- ・開催方法：オンライン開催
- ・人数：52名
- ・期間：21年2月～4月末まで
- ・対象：キッズドアファミリーサポートに登録している高校生のお子さんをお持ちの保護者の方。

#### ー掲載記事一覧

- ・Businessinsider (1月14日) <https://www.businessinsider.jp/post-227879>
- ・教育新聞 (1月13日) [https://www.kyobun.co.jp/news/20210113\\_03/](https://www.kyobun.co.jp/news/20210113_03/)

↑ 当企画のスケジュール

# 「新しい就労支援の未来を考える勉強会」について

- 就労支援に関係するステークホルダー（研究者、ひとり親や女性の就労支援をしている企業・地方自治体・NPO等）を集め、就労支援の在り方を考える勉強会を開催中。



## 今の就労支援制度では届かない支援

■ 国や行政、ハローワークなどで行なっている就労トレーニングを利用したことはありますか？

・利用したことがない：81%  
・利用したことがある：19%

■ ひとり親や生活困窮されている方のために、国や行政で様々な就労支援事業を行なっているのを知っていますか？

・知っているが利用していない：52%  
・知らない：27%  
・利用したことがある：21%

キッズドア調査  
N=649 調査時期：21年1月時点

■ 母子家庭父子家庭が看護師、介護士等の資格取得を支援するための高等職業訓練促進給付金等事業を知っていますか？

・知っているが利用していない：65%  
・知らない：29%  
・利用したことがある：6%

キッズドアが全国の困窮子育て世帯に調査した結果、行政が実施している就労支援には、当対象にはリーチしきれていない現状が分かってきた。

## ①負担額が大きい

- 高度就職支援は貯金がないと使えない。民間の資格を取ってもあまり就職につながらないので、国家資格などもっと就職に強い資格や技術がとれる就労支援がほしい
- 自己負担率が高すぎて利用できません。また訓練中の生活費が捻出できないため訓練を受けることができません。訓練を承ける際の金銭的な補助をもう少し拡充してほしいです

## ②時間的な制約があり参加できない

- 現在働きながらだと時間に決まりがあるため就労支援に参加できないと言われ、断念したことがあるので、融通をきかせて欲しいと思った
- 資格を取得する講習会には、昼間は現在の仕事があり、夜は小さな子供がいるため、参加が厳しいです。自宅でテキストがあれば取得出来るものなのか、勉強する時間があるのかなど不安があります。

## ③獲得できる資格の幅が狭い

- 看護師、介護士だけではなくもう少し幅を広げてほしい。宅建とか、行政書士とか。あと、こういう就労支援の学校に通う場合 子供の面倒をみってくれる人が必須ですが 私には、そういうフォローをしてくれる人はいません。そういう細やかな所まで支援してほしいと思います。
- 医療事務を職業訓練に通い取りましたが、収入がとても安すぎるのと経験がある方の募集が多い事。未経験だと難しい。

## ①仕事・子育て・家事等で就労支援の時間確保ができない

- ・平日夜・土日開催のオンラインなら参加できる（子供を見守りながら）。
- ・そもそもハローワークに行く時間がない。
- ・労働時間を自分でコントロールしづらい。

## ②情報にリーチできていない

- ・「高等職業訓練促進給付金等事業」などの認知が約7割程度となっている。
- ・キッズドアのアンケートで、「支援情報をどこから得ますか？」 キッズドアからのLINE・メール 66%, 市政だよりなどの広報誌23%、市役所区役所のHP22%、国のHP3%との結果となった。

## ③就労に前向きになれず、またきっかけもない。

- ・自信がなく前向きになれない。
- ・上記のため就労や就労に向けて取り組むきっかけがない※  
※MOS資格取得支援（受験料支給とテキスト配布、メールでのフォローのみ）で「勉強自体久々だったので、試験勉強が楽しかったです。試験がなかったら勉強しなかったので、とても良い経験ができました。」などのコメントを頂戴。



# 参考資料

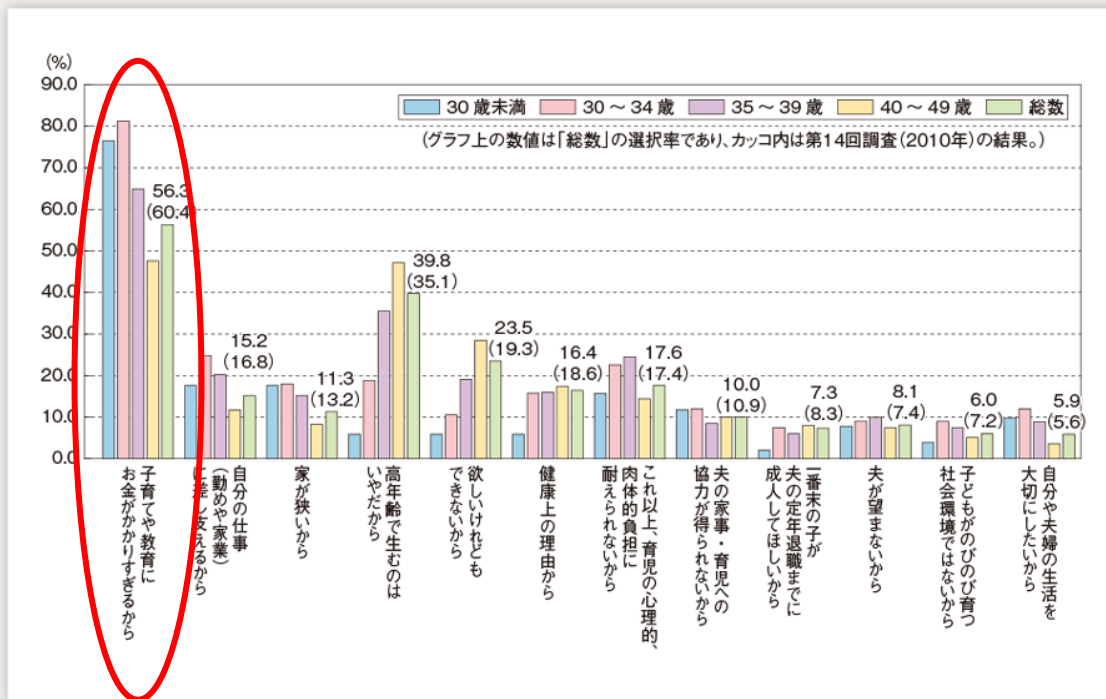
## 少子化と子どもの貧困

子ども・子育て・若者関連予算の  
倍増を！

# 子どもの貧困と少子化の原因は同じ ＝子育て家庭への税の再分配が少なすぎる

## コロナで、十分な食事が取れないほど子どもの貧困は進み、少子化が超加速

妻の年齢別にみた、理想の子供数を持たない理由



資料：国立社会保障・人口問題研究所「第15回出生動向基本調査（夫婦調査）」(2015年)

注：対象は予定子供数が理想子供数を下回る初婚どうしの夫婦。予定子供数が理想子供数を下回る夫婦の割合は30.3%。

### ●まったく成果の出ない少子化対策

夫婦の理想の子供数を持たない理由としては、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」(56.3%)が第1位。

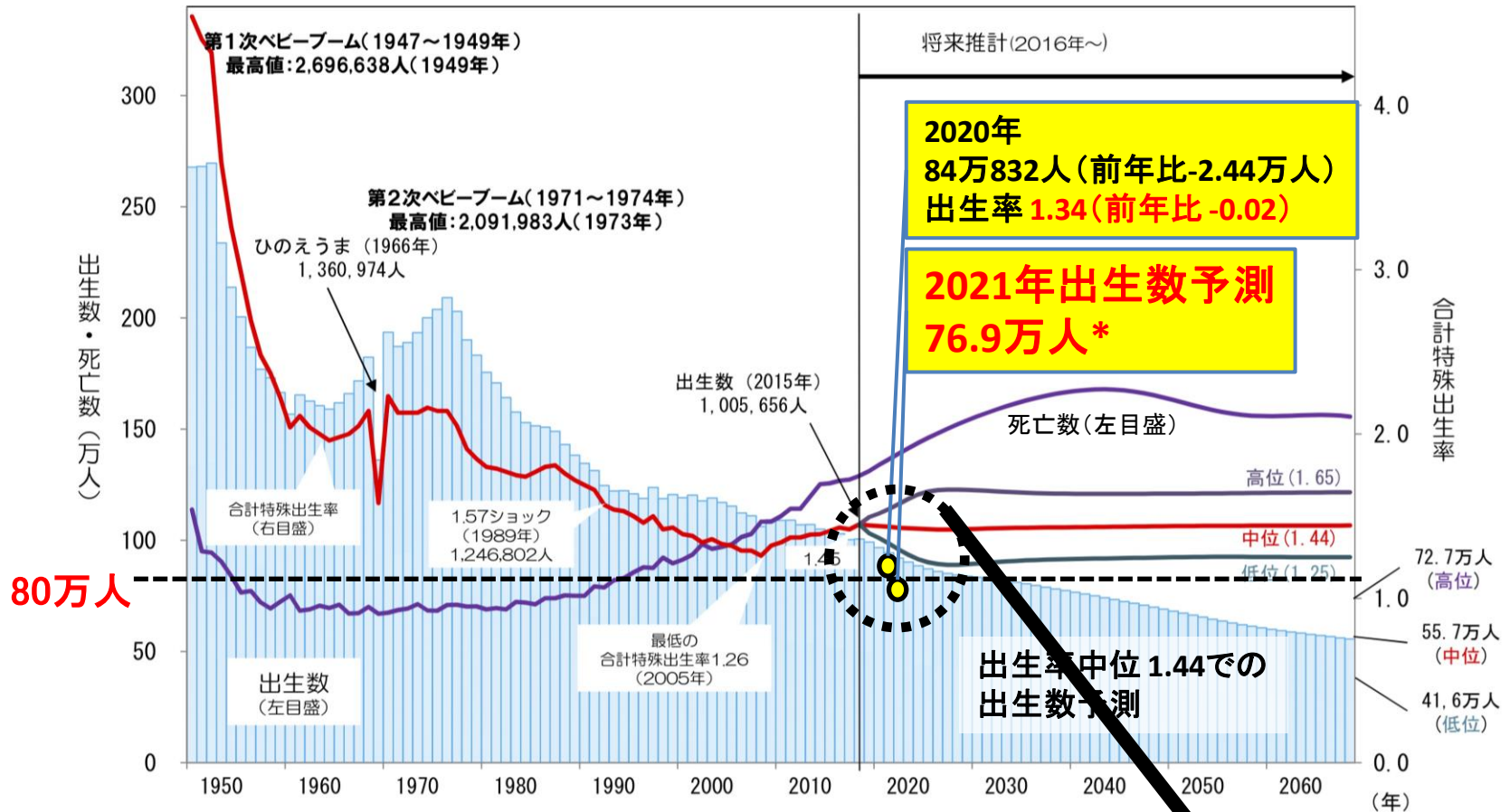
日本は、子育て費用も教育費も親の負担が大きい。幼児教育無償化、高校無償化、高等教育就学支援新制度(給付型奨学金+学費免除)など、教育費用に関しては、少しずつ改善されているが、子育て費用に関しては、長年放置されてきました。

### ●コロナで飢える子どもたち

共通テストの受験料が払えず大学受験ができない受験生 etc

コロナ禍で、困窮家庭では、満足に食事も取れないような状況が1年以上続いているのに、政府主導の施策はほとんど行われず、NPO等からの要請や署名活動が無いと、何も動かない状況は異常ではないでしょうか？

# 出生数及び合計特殊出生率の年次推移(昭和22～平成77年)



資料:2015年以前:厚生労働省大臣官房統計情報部「人口動態統計」

2016年以降:国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)」[出生中位・死亡中位推計]

(注)2015年までは確定数である。

[https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu\\_Shakaihoshoutantou/0000173087.pdf](https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Shakaihoshoutantou/0000173087.pdf)

\* 2021年出生数予測—公益財団法人ニッポンドットコム<https://www.nippon.com/ja/in-depth/d00701/#>

予測より大きく  
下回っている

## 出生数は2021年には80万人を割る可能性大

「日本の将来人口推計」(平成29年推計)よりも30年以上早く少子化が進んでいる

諸外国はすでに少子化対策強化

出産支援策競う世界 出生数、コロナで急減  
イタリア、 newborn/シンガポール、補助増 日本は「小粒」の指摘も  
(2021年4月10日)

<https://www.nikkei.com/article/DGKKZO70885720Z00C21A4EA4000/?unlock=1>

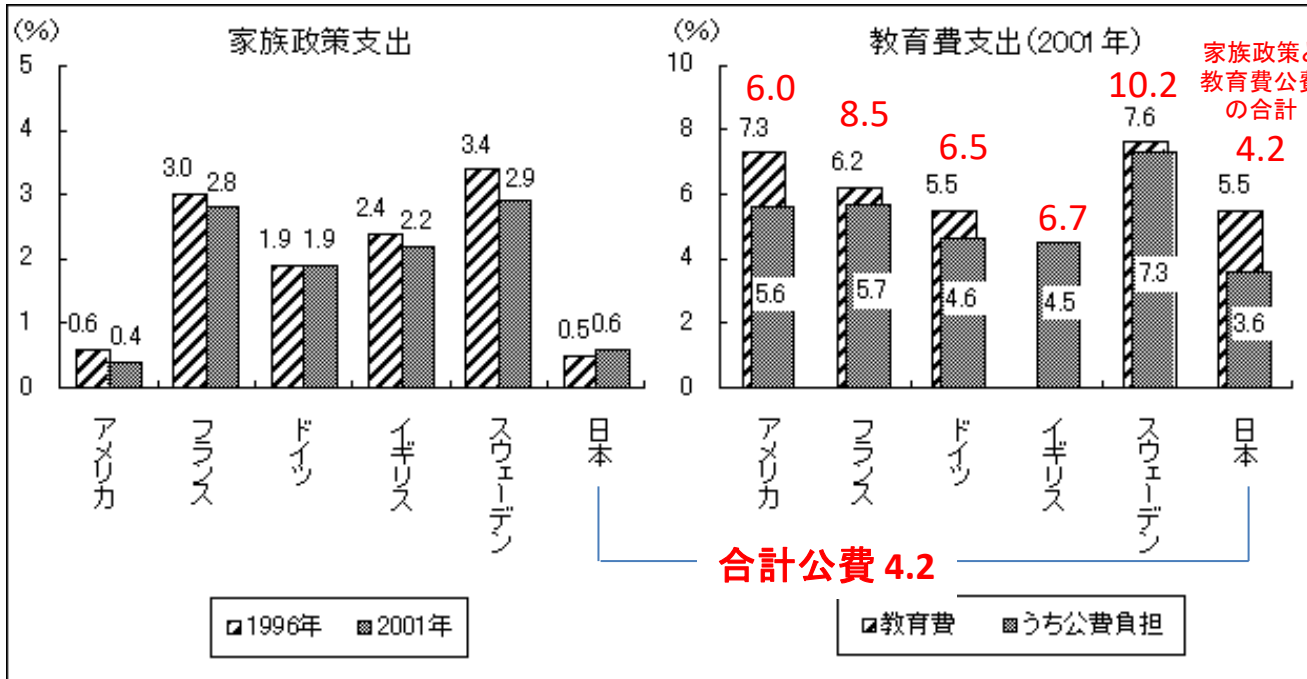
イタリア	子ども1人あたり月250ユーロ給付 妊娠7カ月から21歳まで
シンガポール	第2子への補助、従来比5割増
韓国	2022年から出産時一時金200万ウォン 1歳まで毎月30万ウォン支給
日本	シッター補助の拡充 東京都は10万円分の育児支援

# 子どもの貧困も虐待も少子化も最大の原因はこども関連予算が少ないこと

(内閣府)社会全体の子育て費用に関する調査研究報告書概要

図表 47 各国の子育て関連支出の対GDP比

<費用の範囲> 家庭政策支出: 児童手当等金銭補助、保育所運営費等    教育支出: 学校教育費、奨学金、家計支出



**家族政策支出も  
教育支出も  
少なすぎる**



**コロナで収入が  
途絶えると  
子どもが飢え  
学校を辞めざるを  
得ない**

注. イギリスについては教育費総額のデータはない。

[https://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/research/cyousa16/hiyo/chap2\\_6.html](https://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/research/cyousa16/hiyo/chap2_6.html)

**こども庁を作るなら、こども関連予算を増やすことは必須！！**

ご清聴ありがとうございました。